

文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究 (シ05)

目 的 東京文化財研究所で行われている調査研究に関する情報及び国内外の文化財に関するさまざまな情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、それらの情報の効果的な公開の手法に関する調査研究を行う。

- 成 果**
1. デジタル画像の形成方法の研究開発
 - ア) 運営費交付金や外部資金による他プロジェクトの一環として、東京文化財研究所内外において、重要文化財准胝観音像（東京国立博物館所蔵）、国宝十二天像（京都国立博物館所蔵）など多数の文化財の光学的調査を実施、一部は成果報告書を編纂した。また、調査研究の成果を論文等で発表した。
 - イ) 『春日権現験記絵巻七・巻八 光学調査報告書』を2020（令和2）年2月10日付で刊行した。
 - ウ) ガラス乾板に記録された色情報に関する予備調査として、広島市立大学、沖縄県立博物館・美術館等での聞き取り調査を実施した。
 2. 文化財情報に関する調査研究

文化財情報研究室で構築したウェブデータベースとその構築過程、及び運用についてまとめ、成果を論文や学会等で発表した。
 3. 東京文化財研究所が行う調査研究成果の発信
 - ア) 文化財情報の適切な発信のための情報の扱いに関する調査研究を進め、学会や論文を通じて発表した。
 - イ) 展示収蔵施設の学芸員、自治体の文化財担当者などの実務家を対象に、2019（令和元）年12月2日、「文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー」を開催した。
 - ウ) 研究成果を紹介するパネルをエントランスロビーで展示した。令和元年度は保存科学研究センターの「高松塚古墳壁画・キトラ古墳壁画の保存修復」であった。
 4. 調査研究及び研究成果発信のための文化財情報基盤の整備・充実
 - ア) ネットワーク機器及びソフトウェアの保守・監視を実施、国立文化財機構内他施設の担当者と情報交換を行いセキュリティ水準の維持・向上に努めた。また、職員の情報セキュリティへの意識向上を目的に、「情報システム部会研修会」を1回開催した。なお、所内の情報基盤整備及びセキュリティ関連業務は、各部・センターの情報システム部会員と連携して実施している。
 - イ) 所内一所外間を接続するL3スイッチを更新し、セキュリティレベルの向上を図った。また、オプティカル・ディスク・アーカイブ (ODA) を導入、デジタルデータの保存性を高めた。

ウェブサイトアクセスランキング

1	東京文化財研究所トップ	6	『保存科学』
2	ガラス乾板データベース	7	『日本美術年鑑』所載美術界年史彙報
3	書画家人名データベース	8	黒田清輝日記トップページ
4	『日本美術年鑑』所載物故者記事	9	久野健寄贈資料
5	黒田清輝日記（日付別）	10	年記資料集成

(令和元年度 上位10位まで)

ウェブサイトの主な更新履歴

年月日	更 新 内 容	関 係 部 局
19.4.8	国際シンポジウム「メソポタミア文明の遺産を未来へ伝えるために」開催	文化遺産国際協力センター

19.4.10	ワークショップ「染織品の保存と修復」2019 開催	文化遺産国際協力センター
19.4.26	ワークショップ「漆工品の保存と修復」2019 開催	文化遺産国際協力センター
19.5.8	売立目録デジタルアーカイブ 公開	保存科学研究センター
19.5.8	報告書『日本における染織文化財の保存』公開	東京文化財研究所
19.5.10	【日本博】東京シシマイコレクション 2020 プレイベント 開催	無形文化遺産部
19.6.6	文化財修復処置に関するワークショップ プーゲルやエマルジョンを使用したクリーニング方法ー 開催	保存科学研究センター
19.6.12	国際集会「日本絵画の修復」開催	文化遺産国際協力センター
19.6.12	エントランスロビーパネル展示「高松塚古墳壁画・キトラ古墳壁画の保存修復」	保存科学研究センター
19.8.15	文化財修復処置に関する研究会ークリーニングとゲルの利用についてー 開催	保存科学研究センター
19.8.20	東京国立博物館・東京文化財研究所の共同研究による国宝平安仏画ウェブコンテンツ 公開	文化財情報資料部
19.10.1	第53回オープンレクチャー かたちからの道、かたちへの道 開催	文化財情報資料部
19.10.16	無形文化遺産国際研究者フォーラム (12月17日・18日) 開催	無形文化遺産部
19.11.17	ゲッティ・リサーチ・ポータルでの日本の美術展覧会カタログ 公開	文化財情報資料部
19.11.1	文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー 開催	文化財情報資料部
19.12.13	シシマイフォーラム 2020 開催	無形文化遺産部
19.12.18	「東京シシマイコレクション」ウェブサイト 開設	無形文化遺産部
20.1.8	第13回公開学術講座「染織技術を支える草津のわぎ 青花紙ー花からつくる青色ー」開催	無形文化遺産部
20.1.15	文化財修復処置に関するワークショップーナノセルロースの利用についてー 開催	保存科学研究センター
20.2.3	国際研修「紙の保存と修復」2020 開催	文化遺産国際協力センター
20.2.14	国際研修「世界遺産のための遺産影響評価に関する研修」開催	文化遺産国際協力センター

(定期刊行物の公開、活動報告、公募情報を除く)

論文・小山田智寛：「文化財データベースの作成とその意義について」『美術研究』429 東京文化財研究所 pp.65-74 20.1 ほか4件

発表・OYAMADA, Tomohiro, et al.: Two solutions for orthographical variants problem 2019 CIDOC annual conference (第25回ICOM (国際博物館会議) 京都大会 2019) 19.9.3 ほか3件

刊行物・『春日権現験記絵巻七・巻八 光学調査報告書』 20.2

研究組織 ○二神葉子、江村知子、塩谷純、小林公治、小林達朗、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、米沢玲、城野誠治、三島大暉、逢坂裕紀子、谷口每子、安岡みのり、丸山礼、手呂内孝憲 (以上、文化財情報資料部)

広報委員 (情報システム部会)：佐野千絵 (保存科学研究センター長) 各部署情報システム部会員：安達佳弘、大島大輔 (以上、研究支援推進部)、小野真由美 (文化財情報資料部)、石村智 (無形文化遺産部)、倉島玲央 (以上、保存科学研究センター)、加藤雅人 (文化遺産国際協力センター)

広報委員 (年報部会)：山梨絵美子 (副所長) 各部署年報部会員：安川政和、井上裕介、三本松俊徳 (以上、研究支援推進部)、小林公治 (文化財情報資料部)、久保田裕道、前原恵美 (無形文化遺産部)、倉島玲央、中山俊介 (保存科学研究センター)、友田正彦、安倍雅史 (文化遺産国際協力センター)

専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充(シ06)

目 的 当研究所が行う文化財の調査・研究の成果を集約するとともに、専門性の高い資料や情報を蓄積・整理する。併せてデータベースの継続的拡充を行い、資料閲覧室を窓口にして文化財に関する総合的レファレンスを充実させる。

- 成 果**
1. 当研究所2階の資料閲覧室を運営、週3回開室し、国内外の研究者等へ図書・雑誌・写真・デジタルコンテンツ等を利用に供した。
 2. アーカイブズ・ワーキンググループ協議会の開催
全所的文化財情報を発信するため、4半期ごとにアーカイブズ・ワーキンググループ協議会を開催した(2019(令和元)年5月13日、8月6日、10月18日、2020(令和2)年3月31日、第4回のみメールによる協議)。各部門の担当者とともに成果公開のための情報の標準化を進めた。
 3. 刊行物アーカイブズ・システムを運用・評価し、継続的・安定的な研究情報の蓄積・公開を推進し、図書館システムの運用を行い、情報の標準化に努めた。
 4. 明治・大正期刊行の貴重書、写真資料のデジタル化推進
 - ・当研究所及び東京美術倶楽部所蔵の売立目録について、データ入力とシステム改良を行い、売立目録デジタルアーカイブを完成させ、2019(令和元)年5月より公開を開始し、国内外からの利用者に提供した。さらに2020(令和2)年2月25日に関連研究会を開催し、成果公開を行い、今後の課題や発展性を共有する機会とした。
 - ・当研究所の所蔵する写真資料、近現代の美術作品カード(絵葉書資料)等のデータ入力を進め、公開のための準備を行った。
 5. ゲッティ研究所が構築している語彙データベースとの連携のため、当研究所が蓄積してきた美術家情報、その整備について報告した。
 6. 美術資料のデータ化と成果公開
永青文庫所蔵「洋人奏楽図屏風」(重要文化財)に関するデジタルコンテンツ等を作成し、2020(令和2)年1月より所内公開を開始した。

閲覧室事業の運営

1. 年度内資料受け入れ数
和漢書1,853件、洋書777件、展覧会図録・報告書等1,355件、雑誌2,720件(合計6,705件)
2. 年度内閲覧室利用状況
公開日総数125日・年間利用者合計988人※新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休室10日(20.2-3)

発 表・Hideki KIKKAWA: Japanese Artists: Tokyo National Research Institute for Cultural Properties (Tobunken), International Terminology Working Group Meeting, 20.2.6

- ・山口隆介「仏像研究における売立目録の活用と公開の意義」・山下真由美「土方稲嶺展(於鳥取県立博物館)での売立目録の活用と展開」・月村紀乃「工芸研究における売立目録デジタルアーカイブの活用方法とその事例」・安永拓世「売立目録デジタルアーカイブから浮かび上がる近世絵画の諸問題」、研究会「売立目録デジタルアーカイブの公開と今後の展望―売立目録の新たな活用を目指して―」20.2.25

研究組織 ○江村知子、橘川英規、安永拓世、米沢玲、二神葉子、小山田智寛、小林公治、塩谷純、小林達朗、小野真由美、城野誠治、細川民子、寺崎直子、尾野田純衣、大前美由希、田村彩子、阿部朋絵、鈴木良太(以上、文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務)、早川典子(保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務)、西和彦(文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部兼務)、永崎研宣、片山まび(以上、客員研究員)

平成31年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）(シ08)

目 的 文化財情報資料部の研究成果の一部を外部講師を交えて広く一般に公開する。

- 成 果**
1. 2019（令和元）年11月1日、2日の2日間にわたり、専門家はもとより広く一般からも聴講者を募集し、オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」を開催した。研究所内部より2名、外部より2名の講演を行った。それぞれの講演テーマは次の通りである。
 - ・米沢玲（文化財情報資料部研究員）「大徳寺伝来五百羅漢図と『禅苑清規』一描かれた僧院生活―」
 - ・原浩史（慶應義塾志木高等学校教諭）「広隆寺講堂阿弥陀如来坐像のかたちと込められた願い―願主「永原御息所」の人物像を起点として―」
 - ・小林公治（文化財情報資料部広領域研究室長）「日本唯一の伝世洋剣、水口レイピアの調査と研究」
 - ・田中真奈子（昭和女子大学歴史文化学科）「Spring-8による刀剣研究最前線：制作技術の解明に向けて」
 2. 外部からの聴講者は11月1日が96人、2日は55人の参加を得た。参加者からのアンケート結果では、11月1日の67名の回答者のうち、「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせ88.8%、11月2日の52名の回答者のうち「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせて90.4%の回答を得ることができた。



オープンレクチャーの様子

研究組織 ○小林達朗、塩谷純、二神葉子、小林公治、江村知子、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、米沢玲、三島大暉、野城今日子（以上、文化財情報資料部）、山梨絵美子（副所長）

無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化 (ム03)

- 目 的** 無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。無形文化遺産部所蔵のアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。併せて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。
- 成 果**
1. 映像資料については、再生不可となることが危惧されるHi 8、DVCを中心に媒体変換を行った。
 2. 音声記録のデジタル化は、前年度に引き続き、1960年代に放送された純邦楽関連のテープ録音を中心に収録内容を確認した。また民謡のオープンリールテープ録音についてもデジタル化を実施し、収録内容の確認を行った。
 3. カセットテープに関しては、旧芸能部所蔵テープの内、寺事の現地録音を中心に内容確認を行った。
 4. 無形文化遺産関連の音声映像資料52点（作成DVD20点・作成BD32点）を所蔵資料として新たに登録した。
- 報 告**・飯島満・石村智：「資料紹介：東京文化財研究所で実施した講談実演記録の一覧（2002-2020年）」『無形文化遺産研究報告』14 pp.187-191 20.3
- 研究組織** ○石村智、飯島満、半戸文、牛村仁美、金昭賢（以上、無形文化遺産部）、飯島満（特任研究員）、大西秀紀、宮澤京子（以上、客員研究員）

文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 (コ01)

目 的 文化遺産の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワーク構築を推進する。

- 成 果**
1. 文化遺産保護に関する情報収集のため、以下の国際会議やシンポジウム等に出席した。収集した情報は整理して蓄積するとともに、下記の世界遺産研究協議会開催を始めとして、様々な機会を捉えて関係自治体等関係者に対して情報の周知を図った。
 - ・ 2019(令和元)年6月30日～7月10日 第43回世界遺産委員会(バクー)
 - ・ 2019(令和元)年10月28日～11月1日 第31回国際文化財保存修復研究センター総会及び第92／93回理事会(ローマ)
 2. 文化遺産保護関連の法令の収集・分析及び翻訳作業を実施し、『各国の文化財保護法令シリーズ[24] 中国』を刊行した。
 3. 上記の成果について広く共有を図るため、「世界遺産研究協議会」を開催し、関係自治体等に対して得られた情報・知見の周知を図った。



第43回世界遺産委員会の様子



『各国の文化財保護法令シリーズ [24] 中国』

発 表・境野飛鳥：「第43回世界遺産委員会の報告」世界遺産研究協議会 19.9.20

・西和彦：「HIA 参考指針、および「価値の属性」についての考え方」世界遺産研究協議会 19.9.20

刊行物・『各国の文化財保護法令シリーズ[24] 中国』東京文化財研究所 20.3

・『世界遺産研究協議会「遺産影響評価とは何か」』東京文化財研究所 20.3

研究組織 ○西和彦、境野飛鳥、橋本広美、石田智香子（以上、文化遺産国際協力センター）、二神葉子（文化財情報資料部）、石村智（無形文化遺産部）

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

文化財情報資料部

文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー（シ05の一部として実施）

文化財目録は、文化財に関する最も重要な情報の一つであり、展示や貸出の計画立案など活用のための基礎情報ともなる。また、視覚的な情報である写真も、目録と併せて保存・管理することで、文化財及び関連する情報の適切な保存や活用を可能とする。標記のセミナーでは、展示施設や自治体、修理技術者や研究者など、文化財の記録作成を必要とする実務者への関連の情報提供を行った。

日 時：2019（令和元）年12月2日（月） 13：00～18：00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

主 催：東京文化財研究所

参加者：124名

報 告：・二神葉子（東京文化財研究所）趣旨説明「文化財の記録作成、データベース化の意義」
・小山田智寛（東京文化財研究所）「文化財情報のデータベース化およびその活用について」
・城野誠治（東京文化財研究所）「文化財情報の記録－文化財の写真について－」

無形文化遺産部

第13回無形文化遺産部公開学術講座（ム01の一部として実施）

無形文化遺産部では、無形文化財ならびに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、毎年、公開学術講座を行っている。今年は、「染織技術を支える草津のわざ 青花紙－花からつくる青色－」を2020（令和2）年2月6日に開催した。本講座は、平成28～29年度にかけて滋賀県草津市と共同で行った青花紙製作技術の調査の成果を中心に、調査から2年が経過した現状の報告も交えて開催した。

日 時：2020（令和2）年2月6日（木） 10：30～17：00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：90名

内 容：【講演】

菊池理予（無形文化遺産部）

「青花紙利用の現状

－染織技術者への聞き取り調査を通じて－」

岡田裕美（草津市立草津宿街道交流館）

「草津市と青花紙－青花紙製作技術の保護に向けて－」

石村智（無形文化遺産部）

「文化遺産としての青花紙」

【座談会】「染織材料としての青花紙」 司会：菊池理予（無形文化遺産部）

鈴田滋人（重要無形文化財保持者／木版摺更紗）

岡田裕美（草津市立草津宿街道交流館）

石村智（無形文化遺産部）

【特別上映】

『青花紙製作技術の工程記録』（2018年制作：東京文化財研究所）

青花紙の記録映画『草津市の花 青花 伝承の青花紙』（1999年制作：草津市他）



東京シシマイコレクション（ム02の一部として実施）

日本博参画事業として、日本芸術文化振興会との共催で「東京シシマイコレクション」を開催した。5月には東京国立博物館を含む三者共催で「東京シシマイコレクション2020 プレー東日本大震災から復活したシシマイ」と題した上演イベントを東京国立博物館前庭で開催。多数の外国人見学者も含め、2日間で約2,200名の集客を得た。また1月には「東京シシマイコレクション／シシマイフォーラム2020」と題して伝承者と研究者らでシシマイについて語るイベントを開催、約100名の参加があった。また関連して「東京シシマイコレクション」のウェブサイトを開設。5月に表慶館内で撮影した出演芸能のプロモーション映像を公開している。また5月にはパンフレット、1月には冊子を作成し配布した。

「東京シシマイコレクション2020 プレー東日本大震災から復活したシシマイ」

日 時：2019（令和元）年5月11日（土）～12日（日）

会 場：東京国立博物館前庭

出 演：槻沢芸能保存会（岩手県陸前高田市横田町）
竹浦獅子振り保存会・鷲神熊野神社氏子総代会
（宮城県牡鹿郡女川町）

福田十二神楽保存会（福島県相馬郡新地町）

主 催：東京文化財研究所・東京国立博物館
日本芸術文化振興会

協 力：一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン
株式会社ドウ・クリエーション
縦系横系合同会社



「東京シシマイコレクション／シシマイフォーラム2020」

日 時：2020（令和2）年1月18日（土）

会 場：東京文化財研究所セミナー室

出演・内容：

第1部 【シシマイを知る】レクチャー

久保田裕道（東京文化財研究所）

【地域のシシマイ文化～伝承者から】プレゼンテーション

渋谷正斗（山形県長井市）

戸崎敬・近藤竜也（長野県飯田市）

大島信彦（富山県高岡市）

島袋拓也・大城王希（沖縄県宜野座村）

第2部 【シシマイを語る】トークセッション

高平大輔（映像クリエイター）

菊地和博（東北文科大学短期大学特任教授）

鈴木涼太郎（獨協大学准教授）

森善之（写真家『ジャパングラフ』編集長）

司会：小岩秀太郎（縦系横系合同会社）

第3部 【シシマイに魅入る】ロビーでの鑑賞・交流



主 催：東京文化財研究所・日本芸術文化振興会

協 力：縦系横系合同会社

第2回湿度制御温風殺虫処理法に関する専門家研究集会(ホ01の一部として実施)

湿度制御温風殺虫処理法に関する専門家研究集会では、国内で2例目となった日光中禅寺鐘楼での現地処理の成果を報告したうえで、本法に関する専門家からの意見を頂きながら、この新しい殺虫処理法について社会実装を見据えた実現可能性を探っていくことを目的として開催した。

日時：2019(令和元)年5月9日(木) 14:00~17:00

会場：東京文化財研究所 地下会議室

講演：木川りか(九州国立博物館)

「日光山輪王寺本堂のオオナガシバンムシの被害と日光の歴史的建造物の広域虫害調査結果」

藤井義久(京都大学、客員研究員)「日光中禅寺鐘楼での湿度制御温風殺虫処理」

討議：田中禎彦、森井順之(以上、文化庁)、小暮道樹、長修、原田正彦、野村牧人、手塚茂幸、廣田浩一(以上、(公財)日光社寺文化財保存会)、福岡憲((公財)文化財建造物保存技術協会)、中麿輝美(日光二荒山神社)、稲葉久雄(日光東照宮)、三浦定俊((公財)文化財虫菌害研究所)、園田直子、日高真吾(以上、国立民族学博物館)、藤原裕子(京都大学大学院農学研究科)、石川毅、福田達也(以上、石川工務店)、北原博幸(トータルシステム研究所)、佐野千絵、犬塚将英、小峰幸夫、佐藤嘉則(以上、東京文化財研究所)

文化財修復処置に関するワークショップ—ゲルを使用した修復処置—
(ホ05の一部として実施)

日本では、近代の文化財を中心に、従来の材料とは異なる多様な材料から成る文化財の保存修復を行うことが増加している。このような作品の処置の際に、従来の処置技術では対応が困難な事例が多く見受けられるようになってきている。特に、水にセンシティブな文化財の場合には、少量の水を制御して用いたいというニーズが高まっている。欧米では、このような場合、オリジナルの物質に負担が少なくコントロールのしやすい材料と方法の研究が進められており、今回、日本に初めてパオロ・クレモネージ氏を講師として招聘しワークショップを開催した。

クレモネージ氏はイタリアを中心に活躍される保存科学者で、ゲルやエマルジョンを使用したクリーニングをはじめとした修復処置について長年研究されている。多くの論文や著書のご発表の他、イタリアおよびヨーロッパ13カ国にてクリーニング材料・手法のワークショップも開催実績がある。今回の東京文化財研究所におけるワークショップでは、クリーニングに関する基本的かつ科学的な講義と、ゲルやエマルジョンを用いた実践的な内容とを連携させた3日間のプログラムを行った。

日時：2019(令和元)年10月8日(火)~10日(木)

会場：東京文化財研究所 地下会議室

10/8 (火)	9:00~ 12:00	理論	水および水分環境(1) —水に関する基礎知識—	pH、酸・塩基と緩衝剤。塩とキレート剤。分類と作用の仕方、有効性と制限、相互作用。
	13:00~ 17:00	実技	処置を行う表面の観察：顕微鏡および紫外線蛍光による観察；接触角、pH、導電率の測定。表面分析結果にもとづき、緩衝剤を添加した洗浄水溶液を単体もしくはゲルの形態で調整。表面の予備的なドライ・クリーニング。	
10/9 (水)	9:00~ 12:00	理論	水および水分環境(2) —ゲルの使い方—	界面活性剤。ゲル化剤。分類と作用の仕方。有効性と制限、相互作用。繊細な表面に水分を使用する方法。
	13:00~ 17:00	実技	対象作品への洗浄水溶液の適用、およびフィルム状物質の除去(ワニス、保護層、補彩や加筆の媒剤、無機物/鉱物質)	

10/10 (木)	9:00～ 12:00	理論	溶剤の使い方と極性について	無極性有機溶剤: 炭化水素とシロキサン。テ ィーズ相関図による溶解プロセスの解説。安 全性と有毒性。水処理前の一時的な表面保護、 マクロ・エマルジョン、パーティクル・エマ ルジョン (ピッカリング・エマルジョン)
	13:00～ 17:00	実技	様々な種類のエマルジョン作成。繊細な表面を水処理するための一時的な表面保護。	

参加者 午前の部：56名、午後の部：21名

文化遺産国際協力センター

世界遺産研究協議会「戦略的 OUV 選択論」(④コ01の一部として実施)

コ01プロジェクトで行っている諸研究のうち、世界遺産に関する制度と最新の動向についての情報を提供するため、平成30年度に引き続き研究協議会を開催し、外部研究者を含む5名の発表を行った。今回は、世界遺産委員会で行われた議論等についての報告に加え、世界遺産の保全に関して様々な資産で課題となっている遺産影響評価について、各地での取り組み等の報告を通じて、その実際と今後の方向性について知る機会を提供した。

日 時：2019(令和元)年9月20日(金) 13:00～20:00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：103名

発表者及び題名：・境野飛鳥(東京文化財研究所)

「第43回世界遺産委員会の報告」

・西和彦(東京文化財研究所)

「HIA参考指針、および「価値の属性」についての考え方」

・三好玄(大阪府教育庁)

「百舌鳥・古市古墳群における緩衝地帯の保全—都市部に所在する資産としての取組み—」

・正田実知彦(福岡県)

「世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群遺産影響評価運用マニュアルについて」

・佐藤嘉広(岩手県)「平泉」における遺産影響評価の事例と課題」

全体討論

懇談会・ミニプレゼンテーション：

・中田健一(大田市教育委員会)

「世界遺産登録のインパクトと保存活用—石見銀山の事例—」

・松島吉信(富山県)

「防災遺産・立山砂防の世界文化遺産登録に向けた取組み」

文化遺産国際協力センター

国際シンポジウム「アラビア半島の考古学—オーストリア隊と日本隊の最新の成果から—」 (コ02の一部として実施)

ウィーン大学のマルタ・ルチアニ教授を招聘し、アラビア半島の考古学に関する国際シンポジウムを開催した。ルチアニ教授は発掘中のクレイヤ遺跡について基調講演を行った。クレイヤ遺跡はアラビア半島北西部に位置する大遺跡で、旧約聖書に登場するミデアン族の遺跡と言われ、近年、ウィーン大学によって発掘調査が行われている。ほかにも、アラブ・イスラーム学院、東京文化財研究所、早稲田大学、金沢大学に所属する研究者が、アラビア半島地域における考古学や歴史、文化に関する調査・研究について報告を行った。

日 時：2020（令和2）年1月31日（金） 13：00～17：00

会 場：東京文化財研究所 会議室

主 催：東京文化財研究所

金沢大学

国際文化資源学研究センター課題ユニット「遊牧民と古代文明」

超然プロジェクト「古代文明の学際研究の世界的拠点形成」

科学研究費基盤研究S「中東部族社会の起源：アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究」

参加者：26名

講 演：・マルタ・ルチアニ（ウィーン大学）

「Novel Perspectives on the Archaeology of Desert Settlements in North Arabia」

・藤井純夫（金沢大学）

「Transition in Burial Practice and the Formation Process of Tribal Society in NW Arabia: New Insight from Archaeological Investigations at Wadi Muharraq and Wadi Ghubai Sites」

・安倍雅史（東京文化財研究所）

「Reconsidering the Date of Riffa Type Burial Mounds in Early Dilmun: New Radiocarbon Data from Wadi al Sail, Bahrain」

・長谷川奏（早稲田大学）

「Viewpoints on the Reconstruction of the Early Islamic Daily Life at the Hijaz Region: Archaeological Research at al-Hawra', Red Sea Coast, Saudi Arabia」

・徳永里砂（アラブ・イスラーム学院）

「Distant and Local Inland Networks in al-Hijaz to the Early Islamic Period: Epigraphic Surveys in the Hinterland of al-Hawra'」

文化遺産国際協力センター

国際シンポジウム「メソポタミア文明の遺産を未来へ伝えるために—歴史教育を通じた戦後イラクの復興への挑戦—」 （CO2の一部として実施）

シュメール地方（南イラク）のメソポタミア文明遺産を現地の教員や若者がどのように認識しているのか、また彼らがどのような教育支援を期待しているのかといった声に耳を傾け、戦後イラクの復興における歴史遺産の保護や文化資源を活用した人材育成への日本人の関わり方を論じた。

日 時：2019（平成31）年4月13日（土） 10：00～17：30

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

主 催：特定非営利活動法人メソポタミア考古学教育研究所（JIEAM）、東京文化財研究所

後 援：外務省、駐日イラク共和国大使館

「日・イラク外交関係樹立80周年記念」関連イベント

参加者：約80名

講 演：・小泉龍人（JIAEM）「メソポタミア文明遺産の現状と課題」

・安倍雅史（東京文化財研究所）「東京文化財研究所による西アジア文化遺産保護支援事業」

・小口裕通（国士舘大学イラク古代文化研究所）「日本の研究機関によるイラク調査の意義と成果」

・増渕麻里耶（京都造形芸術大学芸術学部）「文化財保護のための教育と人材育成の重要性」

・ナイーム・アルシュウェイリー（ズィー・カール大学人間教育学部）「教員から見た南イラクの教育現場の実状と課題」

・イマード・ダウード（ズィー・カール大学人間教育学部）「ズィー・カール大学の学生たちの教育支援に対する要望」

・榊原智之（JIAEM、(株)エル・コーエイ）「考古学教育支援の在り方について」

国際シンポジウム「博物館とその周辺のエジプト学研究の最前線」(C02の一部として実施)

2019(令和元)年9月1日～7日の第25回ICOM(国際博物館会議)京都大会2019との連動企画として開催した国際シンポジウム。日本の研究者、学生、一般を対象に、世界の博物館・美術館のコレクション研究を中心とする美術史、また考古学や保存修復学を中心とするエジプト学の研究の最前線について、日本国内及び海外の代表的な専門家が講演を行った。

日 時：2019(令和元)年9月10日(火) 09:30～16:00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

主 催：東京文化財研究所、CIPEG(国際博物館会議エジプト学国際委員会)日本委員会、金沢大学新学術創成研究機構、古代オリエント博物館、中部大学

参加者：41名

プログラム：・Sakuji Yoshimura (Higashi Nippon International University / Waseda University)

「Conserving the Second Boat of Khufu」

・Kyoko Yamahana (Tokai University)

「The First Papyrus Restoration Project in Japan: Educating Students to Become Papyrus Conservators」

・Hourig Sourouzian (The Colossi of Memnon and Amenhotep III Temple Project)

「An Open Air Museum for Monumental Sculpture within the Temple of Amenhotep III to Keep in situ the Splendid Heritage of the Great King」

・Regine Schultz (The Roemer and Pelizaeus Museum, Hildesheim)

「From Pi-Ramesse to Hermopolis and from Egypt to Hildesheim and Back」

・Vincent Rondt (Musée du Louvre, Paris)

「Not Everybody Knows that Mariette's Serapeum Dig Represent Some 10 per cent of the Louvre Museum Collection of Ancient Egyptian Objects」

・Tine Bagh (Ny Carlsberg Glyptotek, Copenhagen)

「Amenemhat III: His 'Labyrinth' and Beyond」

・Betsy Bryan (The Johns Hopkins University, Baltimore)

「The King and the Image of God: Joining a Statue of Amenhotep III in London and Cairo」

・Mohamed Gamal Rashed (Damietta University, Damietta)

「Unpublished Statues from the Karnak Cachette at the Egyptian Museum: Tracing the Genealogy of Some Priestly Families」

・Melinda Hartwig (Michael C. Carlos Museum, Emory University, Atlanta)

「Researching the Senusret Collection」

・Tomoaki Nakano (Chubu University)

「The Egyptian Collection at Kyoto University for the Next Hundred Years」

・Gabriele Pieke (Reiss-Engelhorn-Museen, Mannheim)

「Egypt in Manheim: An Old Collection with New Visions」

・Christian Loeben (Museum August Kestner, Hannover)

「Hanover: The Second Largest Amarna Collection in Germany – Past – Present – Future」

・Christian Greco (Museo Egizio, Turin)

「Digital Revolution and Humanism」

総合研究会 ④シ

総合研究会は、各研究部・センターの研究員がプロジェクトの成果や経過を発表し、その内容に関して所内の研究者間で自由に討論する場である。令和元年度は下記のスケジュールで開催した。

- ・第1回 2019(令和元)年5月14日(火)
発表者：金井健(文化遺産国際協力センター)
「建造物にみる文化財保護のいま、これから—文化財建造物保存の理念と実際—」
- ・第2回 2019(令和元)年6月4日(火)
発表者：佐野真規(無形文化遺産部)「無形文化遺産の映像記録をめぐる課題」
- ・第3回 2020(令和2)年1月7日(火)
発表者：江村知子(文化財情報資料部)
「日本美術の記録と評価についての研究—「田中一松資料」の保存活用」
- ・第4回 2020(令和2)年2月4日(火)
発表者：水谷悦子(保存科学研究センター)
「環境工学と文化財保存-組積造の塩類風化研究を一例に」

文化財情報資料部研究会 ④シ

文化財情報資料部では、ほぼ月に1回のペースで美術史研究者を中心とする研究会を開催して、それぞれの研究やプロジェクトの成果を発表し、さらに討議によって充実を図っている。平成31(令和元)年度の開催内容は下記の通り。(肩書は発表時のもの)

- 4月23日(火) 黒川公二(佐倉市立美術館)「美術評論家 鷹見明彦の活動とその資料について」
- 5月31日(金) 津田徹英(青山学院大学)「資料紹介 東京文化財研究所架蔵 平子鐸嶺自筆ノート類について—その収載内容とノート類のもつ意義—」 コメンテーター：田中修二(大分大学)
- 6月25日(火) 三島大暉(文化財情報資料部)「Linked Dataを用いた地域文化遺産情報の集約」 コメンテーター：村田良二(東京国立博物館)
- 7月23日(火) 研究会「戦後日本美術アーカイブズの研究活用に向けて—松澤宥アーカイブを例に」
橘川英規(文化財情報資料部)「1950年代、60年代の松澤宥宛書簡—その整理と活用」
木内真由美(長野県信濃美術館)「松澤宥アトリエ「プサイの部屋」の調査・記録報告」
宮田有香(国立国際美術館)「松澤宥アーカイブ(東京文化財研究所—時預かり資料)—内科画廊関連資料を通じて考える利用の可能性」
細谷修平(美術・メディア研究者、映像作家)「映像メディアのデジタイズと保存—松澤資料を例に」
討議
- 8月26日(月) 野城今日子(文化財情報資料部)「彫刻家 小室達 基礎研究」 コメンテーター：小玉敏(しばたの郷土館)、田中修二(大分大学)、戸張泰子(台東区立朝倉彫塑館)
- 9月24日(火) 小林公治(文化財情報資料部)「南蛮漆器成立の経緯とその年代—キリスト教聖龕を中心とする検討—」 コメンテーター：武田恵理(修復家)
- 12月10日(火) 塩谷純(東京文化財研究所)・伊藤史湖(久米美術館)「黒田清輝・久米桂一郎の書簡を読む」
- 12月24日(火) 林佳美(東海大学)「日本中世のガラスを探る—2018・2019年度の調査をもとに—」 コメンテーター：井上暁子(ガラス工芸史研究者)
- 1月25日(火) 依田徹(遠山記念館)「明治文化と井上馨」

2月28日(木) 研究会

「売立目録デジタルアーカイブの公開と今後の展望—売立目録の新たな活用を目指して—」
(以下の別項に詳述)

文化財情報資料部

売立目録デジタルアーカイブの公開と今後の展望—売立目録の新たな活用を目指して— (文化財情報資料部研究会の一部として実施)

東京文化財研究所は、明治から昭和に発行された約2,500冊の売立目録（オークションカタログ）を所蔵し、長年、閲覧に供してきたが、保存状態が悪い目録も多いため、戦前の目録についてのみ、2015（平成27）年から東京美術倶楽部と共同でデジタル化を行い、2019（令和元）年5月に売立目録デジタルアーカイブとして公開を開始した。本研究会では、その公開に関連して、さまざまな分野における売立目録デジタルアーカイブの活用事例を発表することで、今後の展望や利点をはじめ、問題点や注意点について考える場を提供した。

日 時：2020（令和2）年2月25日（火） 13：30～17：30

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

主 催：東京文化財研究所

参加者：47名

発表者：山口隆介（奈良国立博物館主任研究員）「仏像研究における売立目録の活用と公開の意義」

山下真由美（細見美術館学芸員）「土方稻嶺展（於鳥取県立博物館）での売立目録の活用と展開」

月村紀乃（ふくやま美術館学芸員）「工芸研究における売立目録デジタルアーカイブの活用方法とその事例」

安永拓世（東京文化財研究所研究員）「売立目録デジタルアーカイブから浮かび上がる近世絵画の諸問題」

ディスカッション・質疑応答（上記4名・会場参加者）

文化財情報資料部

東文研 総合検索（シ05の一環として実施）

東京文化財研究所が所蔵する図書や雑誌、展覧会カタログ、画像等の資料、東京文化財研究所の定期刊行物、国内外の美術関係文献等について、メタデータを横断的に検索することが可能なウェブデータベースで、デジタルデータを公開する「研究資料データベース」も含め、28件のデータベース、約129万件のデータを検索対象とする。検索画面は日英両言語に対応している。当研究所の定期刊行物については、本文のPDFデータを閲覧することも可能である。なお、日本国外における美術展覧会・映画祭開催情報、及び日本国外で出版された書籍情報に関しては、英国セインズベリー日本藝術研究所が採録した情報を受け入れている。
www.tobunken.go.jp/archives/

文化財情報資料部

研究資料データベース（シ05の一環として実施）

東京文化財研究所が作成、収集した研究資料の画像データやテキストデータを検索・閲覧することができるウェブデータベース。現在、18件のデータベース、9万件弱のデータを公開しており、すべてのデータベースを横断的に検索可能で、一部を除き「東文研 総合検索」からの横断検索にも対応している。